

湯沢高原 ロープウェイ施設等 貸借契約の 締結に対する

賛成討論

角谷 勉

町営時代に高額な赤字補填が必要となり、SRSに運営を依頼。契約内容は、依頼を受けた民間企業が、大変不利になっておりSRSは、大幅に数値を改善したにもかかわらず多額な累積赤字が残り、一方、町は逆に、8000万円ほどプラスになっている。民間企業が、多額な累積赤字を抱えてまで、町有施設の事業継続する意味はないと考える。

以前より、SRSとの契約内容変更の必要性が議論され、さらに1年前には、契約内容変更に伴う、再整備の必要性が提示され議会で契約の更新を承認している。さらに、この1年間、執行部とSRS、議会で議論を重ね、3月1日に仮契約を締結し本会議に至っている。契約は信頼関係に基づくことが基本である。

*今村 定議員も契約締結に対する賛成討論を行いました。

平成24年度 一般会計予算 に対する

賛成討論

岸野 雅人

先日、白井議員が面白い例え話をしてくださいました。「町は大家なんだから、経年劣化分や主要施設の点検整備・改修はしなければなりません」というものでした。この度の支出計画の例え話としては、分りやすいと思います。さきほど決まった契約書は、それでも、5年前の契約書・協定書などと比べて、現実的な契約内容であると思いません。湯沢高原ロープウェイに関する予算については、今は契約と一体のもので、運営を監視し理解を深める委員会が立ち上がり、予算は毎年、補正予算はその度に議会で審議するので、支出の制御が可能である事。ここで日本ケール&SRSとトラブルになってはなりません。これは観光地としての信用度に深いダメージを与えてしまいます。

以上をもって、予算の組替え動議については反対をします。

平成24年度 一般会計予算 に対する

賛成討論

角谷 勉

湯沢高原の再整備は殆どがりフト関係であり、安心、安全の確保は評価するが、整備費は予算をあげてから細部を確認するとしている。

安心安全を、いかに少ない予算で、効果的に確保するかを強く要望する。

私たちに求められているのは予算主義から成果主義への転換ではないだろうか。

町民の方々が求めているのは、5年後、10年後に湯沢高原をこんな姿にするために、これだけの投資をする、という強い意志とビジョンだと考える。

今後、湯沢高原の方向性や事業計画を検討するにあたり、同時に湯沢高原の課題も明確にした上で、それに対応する行政の役割は何かということ、今まで以上に示すことを要望する。

*師田 保議員も、原案に対して賛成討論を行いました。